

発言No. /

受付No. 3

令和4年6月5日

15時42分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 18番

氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

市長  教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1. コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分創設の取組について

4月26日に決定された、コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を拡充し、「コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分」が創設されました。

これにより、地方自治体を実施する生活に困窮する方々の生活支援や、学校給食費等の負担軽減など、子育て世帯の支援、また、農林水産業者や運輸・交通分野をはじめとする中小企業者等の支援といった取組をしっかりと後押しすることが総合緊急対策に明記されています。

このことを受け、創設枠を活用し、浜田市においても市民生活を守る対策を早急かつ効果的に実施していただくよう、市長に対し会派として先般、緊急要望も行いました。

今回はその項目から何点か取り上げ質問をいたします。

#### (1) 生活者支援について

①4月28日に出された文部科学省からの通達では、学校給食等の負担軽減

等として、「学校給食を実施する学校設置者においては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の拡充により創設されるコロナ禍における原油価格・物価高騰対応分を活用し、学校給食等の保護者負担の軽減に向けた取組を進めていただくようお願いする」とあります。

そこで、学校給食費等の負担軽減の取組について検討がなされているのか伺います。

②保育所、幼稚園、認定こども園などの給食費についても、負担軽減を検討していただきたいと思いますが所見を伺います。

③子育て世帯の支援について、先般の臨時会で可決された国事業の児童 1 人当たり 5 万円を給付する「子育て世帯生活支援特別給付金事業」について、対象拡大や給付額の上乗せを市独自支援として検討していただきたいと思いますが所見を伺います。

④生活に困窮する方々の生活支援について、国で検討されている 1 世帯 10 万円を給付する予定の「住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業」について、対象拡大や給付額の上乗せを市独自支援として検討していただきたいと思いますが所見を伺います。

⑤水道料金をはじめとする公共料金について、負担軽減を検討していただきたいと思いますが所見を伺います。

## (2)事業者支援について

①事業者に対する燃料費高騰の負担軽減の支援を検討していただきたいと思いますが。特にバス・タクシーなど地域公共交通や、トラックなど地域の物流の維持に向けた経営支援を行っていただきたいと思いますが所見を伺います。

②福祉事業者については送迎や食材の負担などが拡大しており、支援を検討していただきたいと思いますが所見を伺います。

## 2. 男女共同参画の防災分野の取組について

先日、第5次男女共同参画基本計画に関する取組内容についてセミナーを拝聴しました。

浜田市での取り組むべき課題は広範囲とは思いますが、今回は第4次浜田市男女共同参画推進計画に定められた、先日、訓練も行われた防災分野について伺います。

平常時の備えや避難生活など様々な場面において、男女が共に支え合い、協働で対応できる男女共同参画の視点を取り入れた防災力を高める取組を進めるとあります。

①市の防災会議の女性委員の割合を増大する取組を進めるとありますが、状況を伺います。

②防災の女性職員の配置や、男女共同参画担当職員の視点が反映できる会議に取り組むとのことですが状況を伺います。

③男女共同参画の視点を入れた防災計画や避難所マニュアルを作成することですが状況を伺います。

④避難所運営において男女それぞれの必要な配慮が行われるよう取り組むとのことですが、取組状況を伺います。

⑤男女共同参画の視点を入れた防災講座を実施し、その重要性を周知することですが取組状況を伺います。



発言No. 2

受付No. 9  
令和 4 年 6 月 7 日  
9 時 06 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 7 番 氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者  
(○をつける)

市長 ○教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1. 環境への取組について

#### (1) プラスチックごみについて

- ① 令和元年6月定例会議でも一般質問をした。海に面し水産業を基幹産業にしている浜田市において海洋プラスチックごみ対策についての考えを伺う。
- ② 漁具のプラスチックごみの回収についてどのように実施しているか伺う。
- ③ 資源ごみの減量化として4Rをどのように推進しているか伺う。

#### (2) 環境美化活動について

- ① 6月の環境月間に合わせ、各地域で市民一斉清掃が実施される。町内によって異なると思うが、一斉清掃に事業所やアパートの方などの参加があるのか伺う。
- ② アダプトプログラムの実施状況について伺う。

### 2. 食育について

- ① 食の生活習慣づくりとして「元気な浜田は朝ごはん」の啓発事業を行っているが、事業内容について伺う。
- ② 食の環境づくりとして地産地消を推進している。その中で有機野菜や有機米の市内の消費量について伺う。
- ③ 学校給食の地産地消について、浜田市は県内でも積極的に取り組んでいる。その中で有機野菜や有機米などについてはどの程度使われているのか伺う。



# 一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者  市長  教育長  監査委員  選挙管理委員会委員長  
(○をつける)  農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

## 発言項目及び要旨

- 1 「スポーツ都市宣言」に対する認識と今後の戦略について
  - (1) 「まちづくり」の推進における「スポーツ都市宣言」の意義について
    - ① 陸上競技においては世界に挑戦できる三浦龍司選手というアスリートが誕生したが、多くのスポーツ選手の活躍は浜田市に誇りと元気を与えてくれている。浜田市は平成18年10月1日「スポーツ都市宣言」を制定した。この宣言がスポーツ振興、健康増進にどう活かされているか市長の認識を問う。
    - ② 全国でスポーツ都市宣言を制定している都市は、スポーツを活用して都市計画の推進やまちづくりに取り組むという「スポーツ」をプラットフォームと捉える考えが潮流となっている。プラットフォーム構築推進に対する所見を問う。
  - (2) スポーツ関連施設の今後の整備方針について
    - ① スポーツ振興のためには施設整備は重要な要素となる。現在スポーツ施設は33施設と認識しているが、2017年スポーツ推進審議会の答申を尊重した、公共施設再配置・整備計画推進に対する現在の課題を問う。
  - (3) アスリート育成及び「スポーツ都市」実現のための指導員の拡充について
    - ① アスリート育成等、競技スポーツ強化、都市宣言に謳ってある市民の健康増進や相互交流推進のための、スポーツ普及・啓発を進める日本スポーツ協会公認指導員等、幅広い指導体制の強化が必要と認識しているが所見を問う。
- 2 医療人材の育成と人材還流システムの構築について
  - (1) 今後の医療人材の育成支援強化に対する方針について
    - ① 浜田保健所管内において医師の充足率は84%、看護職員は95.8%と低い。医師を含めた医療関係者に対する奨学金制度の拡充等、様々な支援策は実践されているが、今後のキャリア教育も含めた更なる育成支援の方針を問う。

(2) 浜田准看護学校の支援について

- ① 現在、地域医療の重要な人材育成機関として准看護学校の運営が厳しい状況にあると聞く。ちなみに准看護師の資格取得が可能な学校は現在 132 校で減少中。市内の病院・医院においても准看護学校の卒業生が多く活躍しており浜田准看護学校の存在意義は大きいと認識している。リハビリテーションカレッジ島根、浜田医療センター附属看護学校への運営支援が行われる中、同様に運営支援が必要と考えるが所見を問う。

(3) 医療関係者の U ターン支援システムの構築について

- ① 市外で勤務する医療関係者の中には、地元に戻って働きたいと考えている方がそれなりにいる。そのような方に、どのようなアドバンテージがあれば地元で U ターンして働きたくなるかヒアリングを行い、U ターン支援の仕組み創りを積極的に推進していく考えはないか問う。

### 3 市民の安全・安心確保のためのリスクマネジメント強化について

(1) 行政事務処理ミス状況と発生防止対策について

- ① 当市も今までシステムエラーや人的事務処理ミス等による市民サービス低下事案が発生してきた。また最近発生した阿武町職員による会計システム操作の誤りで、新型コロナ給付金を二重に振り込んだ事案が発生。浜田市は同様の重大な事務処理ミス発生防止に対するリスクマネジメント強化にどう向き合っているのか、市長の見解を問う。

(2) 「フェーズフリー」導入等、市民の命を守る防災対策の強化について

- ① 近年全国的に線状降水帯による大雨被害や土砂災害等が多発。そのような中、防災には極めて有効とされるハザードマップだが、地域によっては浸水エリアにおいて水位予想が 1m も上回ったケースがあり見直しの必要が指摘された。

最近 NHK では全国の新しいハザードマップを作成し、水没リスクを総点検したとのこと。それによると、全国で 1000 年に 1 度の大雨が起きる次代に突入したと! 6 月 5 日は当市の防災訓練が実践されたが、当市としても水没地域、土砂災害地域、避難所の確認ができるハザードマップの活用は不可欠と考える。ハザードマップの最新データ更新や各世帯での活用状況に関して問う。

- ② 最近災害における備えに対する取組として、フェーズフリーという概念がある。これは、「防災」を特別な事象と考えず、平常時も非常時も同じように活用できる施設やものづくりを進める戦略である。先進的な防災意識であるが、未来を担う子供たちに学校教育の現場で、平常時の防災意識を底上げするためカリキュラムに導入することは有効と考えるが所見を問う。



発言No. 4

受付No. 8

令和 4 年 6 月 7 日  
8 時 44 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 5 番 氏名 沖田真治

答弁を求める者  
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1 水産業の振興について

#### (1) 漁港周辺エリアの活性化について

- ① 昨年度よりオープンした山陰浜田港公設市場は「漁港、市場機能の強化」を図ること賑わい創出と観光及び地域活性化を図ることを目的とした施設であるが、大型連休に多くの仲買店舗が休業しており、鮮魚を求めて訪れた方々には残念な結果となり大型連休の観光施設の在り方として今後の課題ではないかと思うが、市としての考えを伺う。

#### (2) 地元漁船の存続について

- ① 令和2年度時点で存続している沖合底引き、まき網、定置網漁船の全船存続に向けて水産業競争力強化漁船導入事業を主な取組内容として行い、全船団の存続を目標としているが、現状は厳しく、中でも定置網漁船の存続は容易ではないと考えているが、市として存続についてどのような考えなのか伺う。

#### (3) 担い手確保事業について

- ① 令和7年度までの18名の漁業研修者を受入れる目標となっている。  
現在、受け入れている研修者の人数と受け入れ先はどのようになっているか伺う。

② 県と連携した漁業研修生の受入れ体制の充実化や漁業技術習得の支援とは具体的にどのようなものか伺う。

(4) 水産多面的機能発揮対策事業について

① 今後、行っていく事業として国が予算措置を行う水産多面的機能発揮対策事業に取り組むようだが、この事業の示す地域協議会とはどの団体なのか伺う。

② 市における活動団体とはどの団体なのか伺う。

③ この制度を活用した取組について伺う。

(5) ブルーカーボンについて

① 全国的に昆布やアマモなどを育成する藻場に恵まれていることから、海藻などによってCO<sub>2</sub>を吸収し、分解するブルーカーボンと言う制度を取り入れる自治体もある。浜田市の広い市域は海に面しており藻場が形成されていることや今後、磯焼け対策に取り組むことを計画していることなどに加え、ブルークレジットを漁業者の所得につなげることにより、沿岸漁業者の所得向上にもつながる可能性を持つ、この制度を検討してみてはどうかと思うが、市としての考えを伺う。

発言No. 5

受付No. 17

令和 4 年 6 月 7 日  
10 時 39 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者  市長  教育長  監査委員  選挙管理委員会委員長  
(○をつける)  農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1. ケアラーを孤立させないための支援体制の充実について

支援を必要としているケアラー（家族介護者等）の早期発見と適切な支援につなぐための施策が必要と考える。ヤングケアラーの対策は子どもの権利擁護の視点からも重要であるが、表面化しにくいいため能動的かつ実効性ある施策が急がれる。また、高齢化の進行により老老介護や認認介護の問題が深刻化しつつあり、孤立化防止の観点から以下質問する。

##### (1) ヤングケアラーの認知度向上のための普及啓発について

- ① 相談窓口設置以降の相談件数、活用状況について伺う。
- ② 国から自治体へ配布されたポスター・チラシの活用状況について伺う。
- ③ 児童・生徒がヤングケアラーの認識がもてるための取組の現状について伺う。
- ④ 早期発見のための教職員研修等の実施状況について伺う。
- ⑤ ヤングケアラー支援のためのコーディネーター配置についての考えを伺う。

##### (2) 高齢者ケアラーの実態把握と支援について

- ① ケアラーの定期的な調査、ニーズ把握の実施、支援基準の明確化について伺う。
- ② ケアラーへの理解を広げる啓発用のリーフレットの作成・配布について伺う。
- ③ ケアラー支援専門員の配置についての考えを伺う。

#### 2. 業務上のミスに対する職員救済の考え方について

阿武町での給付金誤送金問題で処分方針が決定された。職員が委縮したり責任の重い業務を忌避しないために、人間にはミスもあるとの前提での配慮と仕組みが必要と考える。

- ① 業務上のミスにより問題が発生した場合の職員救済の考え方について伺う。
- ② 不測の事態に備え、市が損害賠償責任保険に加入する考えについて伺う。

#### 3. 浜田市核兵器廃絶平和都市宣言と平和教育の現状について

ロシア・ウクライナの戦争が長期化するなか、国際秩序の維持と恒久平和を求める観点からも浜田市核兵器廃絶平和都市宣言の意義は大きい。しかし、国際情勢の変化により戦争と平和、憲法9条、核兵器等、児童・生徒の疑問に真摯に向き合えるか不安もある。

- ① 国際情勢の変化が学校現場での平和教育に与える影響について現状を伺う。
- ② いわゆる政治的中立に対しての指導について教育委員会の考えを伺う。



## 一般質問発言通告書

議席番号 3 番

氏名 大谷 学

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

## 発言項目及び要旨

## 1 命を守る防災行政について

## (1) 予報が困難な地震・津波の対応について

① 今年3月26日の新聞報道によって公表された政府の地震調査委員会の日本海南西部の活断層についての評価を、どのように受け止めているか。また、この公表後に市役所内で対応されたことがあれば、その内容について伺う。

② 東日本大震災の津波被災者に対する意識調査によると速やかな避難行動をした人には、2つ傾向が認められたとのNHKのラジオ報道があった。

1つ目は、「過去の津波の災害事例を知っていた。」

2つ目に、「日頃より避難について家庭内で話し合っていた。」とのことであった。

この結果から命を守るためには、過去を知ること、家庭内の意思疎通による意識の向上を図ることが大事という点である。

そこで、浜田地震のような過去の災害の史実をどのような形で市民に伝え、災害に備えようとしているか、その現状を伺う。

③ 家庭内での話し合いを促進するために大きな役割を果たすのが子どもたちの存在である。

そこで、学校では浜田地震のような過去の災害等をどのように伝え、命を守る行動に導こうとしているか、その現状を伺う。

## (2) ある程度の予測が可能な土砂災害・浸水の対応について

行政側からの避難指示などの情報の発信は重要ではあるが、雨雲レーダーや河川カメラなどリアルタイムな情報を入手できる今日においては、それ以上に市民自らが危機感を持って必要な情報と知識を入手する意識が重要である。

① 市の防災メールの登録者数はいくらか、市民の意識向上や登録者数増加に向けての対応について伺う。

## 2 道路の改良整備について

## (1) 市道の改良整備に対する浜田市の取組について

昭和初期以前より形成されている集落では道幅が狭く軽自動車さえも入れないところもあり、救急搬送にも支障をきたし命が危険にさらされている。また、資産価値の低下にも繋がりは放置されて土地の再利用にも影響がある。市道の拡幅により利便性を高めることは安心安全や住みやすいまちづくりにとって重要な課題である。

① 市道の改良整備に対する認識を伺う。

